

2. 主な用語についての解説

(1) 温室効果ガス (GHG : Greenhouse Gases)

太陽の光は、地球の大気を通過し、地表面を暖めます。暖まった地表面は、熱を赤外線として宇宙空間へ放射しますが、大気はその熱の一部を吸収します。これは、大気中に熱(赤外線)を吸収する性質を持つガスが存在するためです。このような性質を持つガスを「温室効果ガス」と呼びます。大気中の温室効果ガスが増えると、温室効果が強くなり、より地表付近の気温が上がり、地球温暖化につながります。温室効果ガスには様々なものがありますが、人間の活動によって増加した主な温室効果ガスには、二酸化炭素 (CO₂) やメタン (CH₄)、一酸化二窒素 (N₂O)、フロンガスがあります。なお、温室効果の大きさは気体によって異なり、例えばメタンは二酸化炭素の28倍、一酸化二窒素は265倍の温室効果があります。

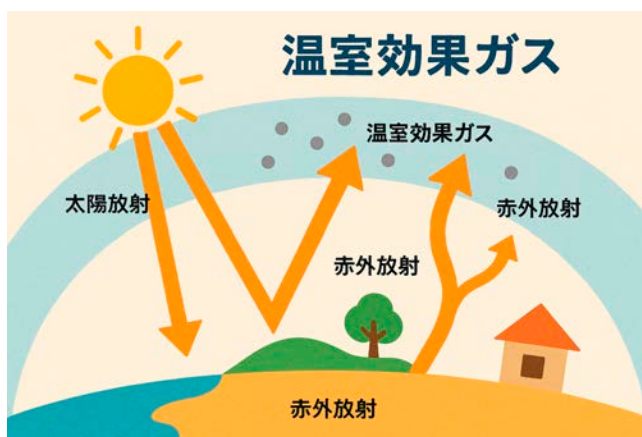


図1 温室効果ガスのイメージ図

(2) パリ協定 (Paris Agreement)

地球温暖化を防ぐための国際的な枠組みで、2015年12月にフランス・パリで開催された「COP21 (国連気候変動枠組条約第21回締約国会議)」で採択されました。

パリ協定での主な内容は、

- 1) 世界の平均気温上昇を産業革命以前と比べて2℃未満に抑える。
- 2) 1.5℃以内に抑える努力を追求する。
- 3) 今世紀後半には温室効果ガスの排出を実質ゼロにする。

となっています。